

「ようこそ！「車いす」で400年ブナに」

藤里森林センター 大倉弘二

1 はじめに

近年、森林での様々な体験活動を通じた森林環境教育、また、ボランティア活動などによる森林整備への参加、さらに、健康づくりの場としての森林の活用など森林に係わっていきこうという取り組みが増えてきています。

このように、森林に親しみ、積極的に利用したいという国民のニーズは、かつてなく高まっています。

こうした要望に応じていくためには、子どもや高齢者、からだの不自由な方々の利用に配慮するなど、すべての人の利用を念頭においた、森林や施設の整備を進めるとともに、森林における各種活動への国民参加を促進していくことが重要となっています。

今回、より多くの方々に森林に親しんでいただくため、平成15年度、白神山地世界遺産地域の周辺地域に位置します、岳岱自然観察教育林内において、森林の保全に出来るだけ配慮しつつ、誰でもが森を散策できる歩道などの施設整備を行いましたので、その概要を紹介します。

2 岳岱自然観察教育林における整備の概要

(1) 藤里森林センター及び岳岱自然観察教育林について

藤里森林センターでは、白神山地の保全管理や森林レクリエーションの業務を通じて、国民の皆様には森林や林業への理解を深めていただくよう努めています。

今回整備しました岳岱自然観察教育林は、私たちが一般の方々に森林に案内する森林ガイド事業や子ども達への森林環境教育の場として、よく使用するフィールドの一つです。(写真1)



写真1 中学生への森林教室

岳岱自然観察教育林は、秋田県藤里町から車で約1時間ほどのところにあり、標高約620m、面積約12ヘクタールのブナを主体とした森林です。

この教育林の特徴は、ブナと苔むした大きな岩とが調和した、日本庭園的な景観が楽しめることやブナの発芽から成長した木に至る生育過程を林内至る所で観察できることにあります。(写真2、3)

昭和48年にレクリエーションの森の風景林に指定した後、平成4年自然観察教育林に変更して、国民の皆様には森林浴や自然観察を楽しんでいただいています。



写真2 ブナと苔むした岩



写真3 400年ブナ

平成5年に白神山地が世界遺産地域に登録された後は、その周辺地域に位置します、ここ岳岱は、アクセスの良さやトイレなどの施設が整っていること、世界遺産クラスのブナ林が手軽にみられることなどで注目されるようになり、多くの方々が訪れるようになってきました。

昨年度は、全国各地から年間約7千名もの方々が訪れています。

また、白神山地のブナ林を見たい、ぜひ訪問したいという声も数多く聞かれます。

しかし、利用が増えるにつれて、根の露出など林地の荒廃が目立ち、ブナ林の保全を求めるご意見をいただくとともに、その利用に当たっても、高齢者やからだの不自由な方が利用するには難しいなどのご意見もいただいていたました。

(2) 整備に当たっての基本的な考え方

こうしたことから、東北森林管理局では、ブナ林の保全に配慮しつつ、誰でもが森林、ブナ林の散策を楽しめるようにするため、岳岱の整備を行うこととしました。

これまで岳岱では、歩道の一部を木道にするとともに案内板などを整備してきました。

今回は、自然の保全と利用のバランスをとることとし、林内の歩道の一部を誰でもが利用できるような歩道にするとともに、休憩場所としても利用できる多目的展示施設を整備することにしました。

(3) 具体的な整備内容

具体的な設計について、誰でもが利用できる歩道は、

- ① 景観面やクッション性、透水性などから、全線をウッドチップ舗装にすること
(写真4)

- ② 幅員は、車いす利用者と歩行者の通行を考慮し、1.5mとすること。

ただし、所々車いす同士が十分にすれ違えるように拡幅した箇所2.0mを設けました。

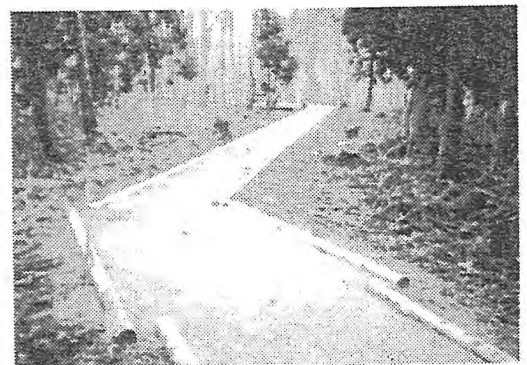


写真4 ウッドチップ舗装の歩道

③ 縦断勾配は、8%以下とすること。もう少し勾配は緩やかにしたかったのですが、現地の地形を見、ブナ林への影響をなるべく少なくするため、このようになりました。

④ 延長は、歩道の総延長約1500mのうち、林道脇の駐車場から岳岱の見所の一つといえます、巨樹巨木100選の一つ、400年ブナまでの約400mとしました。

また、多目的展示施設についても、スロープを設けるなど誰でもが利用出来るようにしました。

(4) 整備に当たっての留意点

整備に当たって、注意したことや苦勞した点をまとめると、

① 地域関係者と一体となって検討したこと
計画段階から、白神山地世界遺産地域の巡視員や当教育林を活用している地元森林ガイドなど関係者に意見を聞いたり、実際に現地で確認したりして進めてきました。
(写真5)



写真5 現地での検討風景

この結果、すべての人の利用を対象にする歩道は、全線にはせず一部とし、また、縦断の勾配を緩やかにし、ブナ林への影響も少なくするため、隣接するスギ林内を通すことにしました。

② ブナ林の保全に配慮したこと

設計や施工に当たっても、ブナは伐らずに残すようにしてコースを設計したり、コース周辺のブナ稚幼樹は植え替えるなどして、ブナ林の保全に心がけました。

事業途中では、歩道の予定ルート上に、ブナ立木がかかったため、ブナを迂回するようなコースに変更するなど、現地で設計者や施工者と何度も話し合い確認しながら、工事を進めました。(写真6、7)

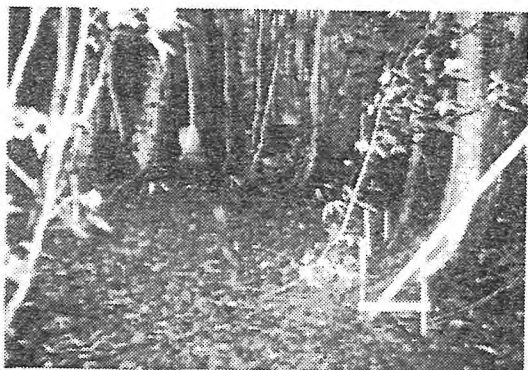


写真6 施工前 歩道予定線上のブナ



写真7 施工後 ブナを保残

③ 林地保全に配慮したこと

森をなるべく荒らさないようにするため、工事に当たっては、極力人力で実施したり、やむを得ず重機を使用する時には鉄板を敷くなど林地保全に心がけました。

④ 人に優しいは、自然にも優しいということ

すべての人の利用に配慮することは、裏を返せば、自然にも十分配慮することにつながると考えます。

特に都市公園での整備と違い、対象である自然にも負荷のかからないよう心がけました。

(5) 整備結果

工事は、9月から始め、12月に終了しました。(写真8、9)



写真8 ウッドチップ舗装による歩道

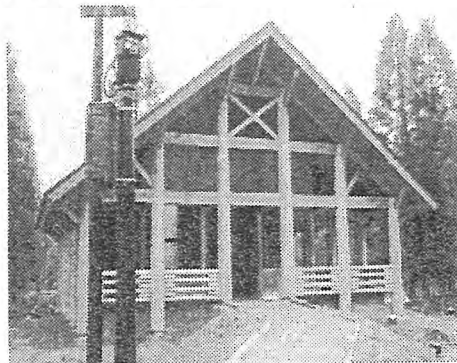


写真9 スロープのある多目的展示施設

(6) 整備後の利用

整備完了後、降雪のため、実際の利用は、翌年の雪解け以降になりました。

歩道などを利用された方々のうち、

車イスを利用する方々からは、「実際に森に入るのは初めてで、ブナ林がすばらしかった、機会があれば再び訪れたい。ウッドチップ舗装も適度な柔らかさがあって、走り心地もよかった。」(写真10)

また、足腰が弱い高齢者の方からも、「山道は段差もあり、なかなか森林を訪れる機会はなかったが、傾斜の緩やかな歩道のため、楽に歩いて、森林浴を十分楽しめた。」などの感想をいただきました。



写真10 車いす利用者の散策

今回の整備により、これまで山に入ることがなかなか出来なかった、車イスを利用される方々や足腰の弱い高齢者などが森に入ることを容易にしました。

その入林された方々は誰もが、森林にふれあうことのすばらしさを感じていて、また、その感銘の大きいことも知ることが出来ました。

3 今後の課題

今後、これらの施設をもっと多くの方々に利用していただき、森林とのふれあいによる効果を高めていくためには、

① より広範な方を対象とした施設の充実

今回、歩くことの不自由な方が容易に森林とふれあうことができる場を提供しましたが、この他にも視聴覚などの機能に不自由な方にも森林と十分親しめるような整備を進めること

② ハードとソフトの密接な連携

このように整備した施設を有効に活用するためにも、森林環境教育を積極的に行うソフト面での取り組みを強化することなども必要と考えます。

4 まとめ

国有林は、今後ますます国民の森林としての役割を高めていくとともに、新たなニーズにも対応した取り組みを進めていくことが必要です。

それには従前のような地元地域、林業といった関係者のみならず、これまで森林に縁の少なかった多くの方々を、どれだけ森林にかかわらせることが出来るかが重要だと考えます。

今回行ったような、すべての方々の利用を可能とする森林や施設を増やしていくことは、今後いろいろな施策を進めていく上で、とても重要なことと考えます。(写真11)

また、国有林をかかえる地域においても、今回のようなレク森での森林レクリエーションとしての利用にとどまらず、エコツーリズムやグリーンツーリズムなどとのタイアップ、さらには、現在林野庁で進められている森林セラピー基地としての利用を通して、新たな活性化策につなげられるのではないかと考えます。

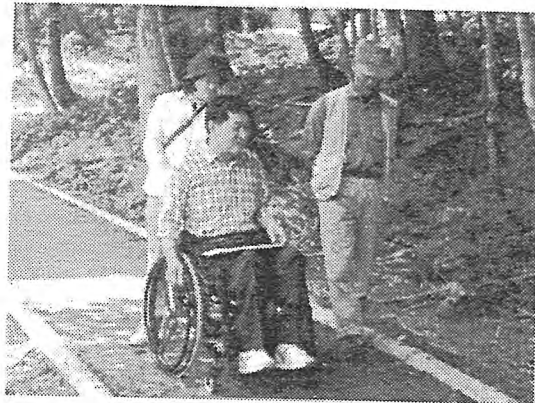


写真11 車いす利用者の散策

今後、この岳岱の施設が一層多くの方々に利用され、森林とのふれあいの機会が増えるとともに、森林の保全管理などについての理解が深まることを期待しています。

皆さん、ぜひ一度、岳岱にいらして下さい。お待ちしております。